

トマトキバガにご注意ください！

- トマトキバガは海外から侵入したトマトを加害するガの一種です。
- 幼虫がトマトの果実に穴を開けるため、多発生すると減収の恐れがあります。

繁殖能力が高く、年に数世代が発生します。幼虫はトマトの葉や果実を食害し、食害された果実は穴が開いてその部分が腐敗するため商品価値が低下します。

体長：成虫 5～7mm 幼虫（終齢（4齢））8mm程度
卵～成虫までの生育期間：24～38日

（気温が低いと期間が延びる）

発生地域：欧州、アフリカ、中東、インド、東南アジア、中南米、中国、台湾など

その他の寄主作物：ナス、ピーマン、パレイショなど

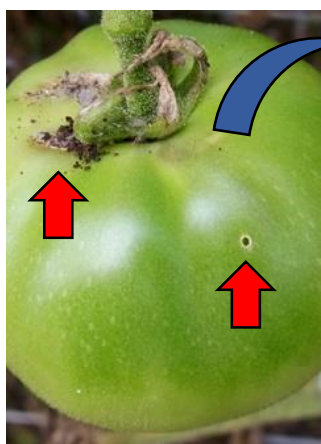
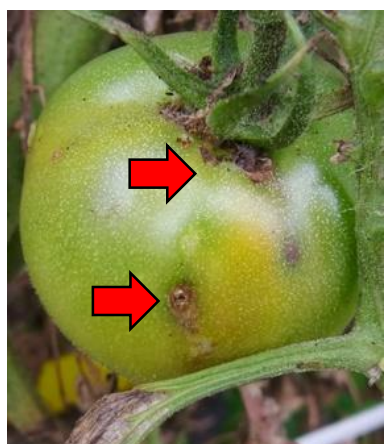


◆ トマトの葉に食害痕はありませんか？

葉の食害痕の様子



◆ 穴の開いた果実はありませんか？



果実の中にこんな幼虫がいたら、トマトキバガかも？

幼虫は葉の食害部分でも見つかります。

オオタバコガの幼虫よりも小さく、体表面に目立つ剛毛はありません。体色は乳白色～淡緑色です。

もしかしたら…と思ったら、お近くのJA、農業普及・振興課、熊本県病害虫防除所（096-248-6490）までご連絡ください。詳しい情報は右のQRコードから→



トマトキバガの防除対策について

トマトキバガのハウス内への侵入・定着と発生時の野外への拡散を防止するため、以下の対策を行いましょよう。

トマトキバガのハウス内への侵入を防ぐために・・・

- 1 ハウスのサイド開口部や谷換気部は、目合い1mm以下の防虫ネットで被覆しましょよう。
- 2 出入口はきちんと閉めて作業しましょよう。

もしトマトキバガの発生が認められた場合には・・・

- 3 薬剤防除を行いましょよう（トマト・ミニトマトのみ）。
※現在、トマトキバガに対する登録農薬はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定に基づき、トマト、ミニトマトに限り別紙の農薬を使用することが可能です。使用にあたっては農薬の登録内容を遵守しましょよう。
- 4 被害果や被害葉には幼虫が潜んでいる可能性があるため、除去して土中深く埋設するなど適切に処分しましょよう。
※野外にそのまま放置することは避けましょよう！
- 5 選果は入念に行い、穿孔痕が見られる果実は徹底して除去しましょよう。※特にヘタ周辺の穿孔痕は気づきにくいので注意しましょよう。
- 6 栽培終了後は、速やかに株を枯死させ、ハウスを密閉し、ハウス内のトマトキバガを餓死させましょよう。
<留意点>
(1) 密閉は1か月以上継続しましょよう。
(2) 果実はすべて株から取り除き、土中深く埋設するなど適切に処分しましょよう。
(3) ハウス内の雑草は生息場所となり得るため必ず除草しましょよう。
- 7 十分な密閉期間が経過し、トマトキバガの成虫が飛び回らないことを確認した上で、ハウス内の片づけ（残さのすき込みなど）を行いましょよう。
※残さをハウス外に持ち出す場合は、焼却するか土中深く埋設して処分し、堆肥化は避けましょよう。
- 8 次作の準備を始めるまでハウスは密閉しておきましょよう。